

「読んだ本の魅力を紹介する」

～文章の表現の工夫について、自分の考えを分かりやすく伝える～

文章の表現の工夫について、自分の考えを書くことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、視点を定めて本を読み、読んだ本の魅力を紹介する学習を提案します。読書案内や新聞の書評などを基にして選んだ本や、比喩を用いた表現が多く含まれる本について、それぞれの視点に沿って本を読み、感じたことや考えたことを交流したり、読んだ本の魅力を紹介する文章を書いたりすることで、文章の表現の工夫について自分の考えをもち、人に分かりやすく伝える力を身に付けることを狙いとします。

課題の見られた問題の概要と結果

B1 文学的な文章を読む(「スコレNo. 4」)

B1三 正答率 **42.3%** 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕	B	書くこと	ウ
〔第1学年〕	C	読むこと	エ
〔第1学年〕	伝国(1)	イ(オ)	

授業アイデア例

学習の流れ

本を紹介している文章を基に読む本を決め、「本を読む際の視点」をノートに書く。
(TYPE III : 第1時)

「本を読む際の視点」に沿って本を読み、感じたことや考えたことをノートに書き留めておく。
(TYPE III : 第2時 / TYPE I : 第1時)

グループごとに「本を読む際の視点」に沿って感じたことや考えたことを交流する。
(TYPE III : 第3時 / TYPE I : 第2時)

「本を読む際の視点」に触れながら、読んだ本の魅力を紹介する文章を書く。
(TYPE III : 第4時 / TYPE I : 第3時)

(言語活動) 読んだ本の魅力を紹介する文章を書く。

本授業アイデア例

活用の仕方

- 本アイデア例は二つのTYPEで示している。TYPE III (数時間にわたる学習過程の中で、知識・技能の習得と活用を図る事例) で授業を行う際には、本アイデア例の冒頭から、TYPE I (調査問題の解答類型等からつまずきの状況を把握し、その解決を図る事例) で授業を行う際には、本アイデア例P.6からの学習の流れを参考にするとよい。

教材例

- (TYPE IIIで授業をする場合)
教科書に載っている読書案内や新聞の書評及びそれらを基にして選んだ本など
- (TYPE Iで授業をする場合)
宮下奈都『スコレNo. 4』(平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1) など

TYPE III : 第1時

- 学習の見通しをもち、教科書に載っている読書案内や新聞の書評などの本を紹介している複数の文章を見て、興味をもった箇所各自で線を引く。
- 興味をもった箇所についてグループで交流する。



教師

本を紹介している文章のどの箇所に、どのような興味をもったのかを明確にして交流しましょう。

【本を紹介している文章】を基にした交流の例

『吾輩は猫である』 夏目 漱石 「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」

捨て猫である「吾輩」は中学校教師に拾われ、その家に住み着きます。そこで見聞きした物事が「吾輩」によって語られます。鋭い風刺、歯切れのよい文体など、多くの読者を魅了するこの作品は、時代を超えて読み継がれています。



Aさん

私は、夏目漱石の『吾輩は猫である』を紹介している文章の「歯切れのよい文体」という箇所に興味をもったよ。今までに読んだ本の文体との違いを確かめてみたいな。

私は「鋭い風刺」という箇所も気になるな。猫の目を通して描かれる人間社会はどのようなものなのかな。



Bさん

- グループごとに読む本を一冊決め、興味をもった箇所を基にして「本を読む際の視点」をノートに書く。



教師

「本を読む際の視点」をノートに書きましょう。全員共通の視点は「表現の工夫」です。さらに、各自で興味をもったことを基にした視点も書きましょう。例えば、Bさんの視点は「『鋭い風刺』が指している内容」ですね。Aさんのように「表現の工夫」について興味をもった人は、全員共通の視点だけでも構いません。

(TYPE I) 授業前の教師の準備

B①三についての生徒の解答の状況を「解答類型」(平成29年度 報告書 中学校 国語)に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

● 「解答類型3」の生徒

比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して感じたことや考えたことを具体的に書いているが、取り上げた表現について、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にして書くことができていない。

TYPE I で授業をする場合のポイント

- 教材として、宮下奈都『スコーレNo. 4』(平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B①)など、比喩を用いた表現が多く含まれる本を提示し、「本を読む際の視点」として、「比喩を用いた表現」を示す。実態に応じて、全員で同じ場面を読んだり、グループごとに別の場面や本を読んだりすることが考えられる。

- 「本を読む際の視点」に沿って本を読み、感じたことや考えたことをノートに書き留めておく。
※ 本を読む時間を十分に確保するように留意する。

- 「本を読む際の視点」に沿って感じたことや考えたことをグループで交流する。

交流する際の留意点

- 考えの根拠となる表現を文章中から引用しながら述べる。
- 引用した表現について、どのように読み取ったのかが分かるように説明する。特に、比喩を用いた表現については、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にする。

ポイント

〔宮下奈都『スコーレNo. 4』を読んだグループの交流の例〕



(TYPE I・IIIの発言例) 比喩を用いた表現で特に印象に残ったのは、「興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いぐらいだった。」という部分で、ここから、自分の思い付きに心を躍らせている七葉の様子が分かったよ。麻子は、七葉の自由奔放さに戸惑っているのではないかな。

(TYPE IIIの発言例) 私は「麻子の心の動き」という視点で読んだよ。文章中に、「負けていない、けど、勝てはしない。」という表現があり、麻子は七葉の自由奔放さに引け目を感じている気がしたな。また、このような表現が作品全体の始めの方にあることで、麻子の心の動きに着目しながらその後の話を読むことができ、話の展開が工夫されていると感じたな。



- 交流した内容を踏まえ、新たに感じたことや考えたことを各自でノートに書く。

(TYPE I) 第2時終了後の教師の分析

第2時終了後に、ノートの記述内容を分析する。

授業前に把握した「解答類型3」に該当する生徒が、次のような内容を記述することができているかどうかを見る。

- 比喩を用いた表現を取り上げ、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、感じたことや考えたことを具体的に書いている。

第2時終了後に不十分だった生徒については、第3時の本の魅力を紹介する文章を書く様子を観察し、必要に応じて指導する。

- 前時のノートを参考にして、「本を読む際の視点」について触れながら、自分が読んだ本の魅力を紹介する100～200字程度の文章を書く。

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 本の魅力を紹介する文章の形式については、書評や読書案内、ポップなど生徒の実態に応じて工夫するとよい。また、完成したものを学校図書館などに掲示したり、次年度以降に同様の単元を行う際の教材として活用したりすることも考えられる。